

安全データシート(SDS)

1 製品及び会社情報

製品名	ネオクリーナーSK
会社名	サンエスエンジニアリング株式会社
住所	宮城県仙台市宮城野区岩切3丁目1番31号
担当部門	技術部
電話番号	022-255-9311
奨励用途及び使用上の制限	特殊洗浄【業務用】
作成日	2022年7月15日
改訂日	-

2 危険有害性の要約

GHS分類

金属腐食性	区分1
急性毒性(経口)	区分4
急性毒性(吸入:ミスト)	区分4
皮膚腐食性/刺激性	区分1B
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分1
呼吸器感受性	区分1
特定標的臓器・全身毒性(単回暴露)	区分1
特定標的臓器・全身毒性(反復暴露)	区分2
水生環境有害性 短期(急性)	区分3
水生環境有害性 長期(慢性)	区分3

※記載のないものは分類対象外または分類出来ない

GHSラベル要素

シンボル

健康有毒性

注意喚起語

危険



危険有害性情報

H290: 金属腐食のおそれ
H302: 飲み込むと有害(経口)
H332: 吸入すると有害
H314: 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷
H318: 重篤な眼の損傷
H334: 吸入するとアレルギー、喘息又は呼吸困難を起こすおそれ
H370: 臓器の障害(呼吸器系)
H373: 長期又は反復暴露による臓器(骨・歯)の障害のおそれ
H402: 水生生物に有害
H412: 長期的影響により水生生物に有害

注意書き

【安全対策】

取扱後はよく手を洗うこと。
環境への放出を避けること。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

【応急措置】

皮膚に付着した場合: 多量の水と石鹼で洗うこと。
皮膚刺激が生じた場合: 医師の診断/手当てを受けること。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合: 医師の診断/手当てを受けること。

【保管】

容器を密閉しておくこと。涼しいところに置くこと。

【廃棄】

内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別 ・混合物

成分名 化学名	含有量 (wt%)	CAS No.	化学式	化審法※1	PRTR法No.※2	毒劇物 該非※3	安衛法※4
界面活性剤	15	非公開	非公開	非公開	非該当	非該当	非該当
塩酸	1	7647-01-0	HCL	(1)-215	非該当	非該当(*)	98
酸性フッ化アンモニウム	0.5	1341-49-7	-	(1)-311	283	非該当(*)	485
有機酸類	5	非公開	非公開	非公開	非該当	非該当	非該当
イオン交換水	残	7732-18-5	H2O	非該当	非該当	非該当	非該当

※1 化審法 官報公示整理番号(化審法)

※2 PRTR法報告物質

PRTRに該当

※3 毒物及び劇物取締法

非該当 指定含有率以下

※4 労働安全衛生法

表示物質 : 施行令第18条 名称等を表示すべき有害物質

通知物質 : 法第57条の2、施行令第18条の2別表第9 名称等を通知すべき有害物質

第2種有機溶剤・第3種有機溶剤 : 施行令別表第6の2・有機溶剤中毒予防規則

有機溶剤中毒予防規則は該当しない。 通知物質・特定化学物質第3種に該当

(*)含有規制値内「塩酸10%以下・酸性フッ化アンモニウム4%以下」

4 応急処置

大量に吸入した場合

- ・気分が悪くなったりした場合は、下記のような処置を行う。
- ・吸入をして気分が悪くなった場合は、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。
- ・気分の戻らない時は、医師の診断を受けること。

皮膚に付着した場合

- ・直ちに水で洗い流し、石鹼で液が付着したところをよく洗うこと。
- ・直ちに、汚染された衣類をすべて取り除くこと。皮膚を流水で洗うこと。
- ・多量の水および石鹼で洗い流す。水泡、痛みなどの症状がでた場合には、必要に応じて医師の診断を受ける。
- ・気分が悪くなった場合・腫れ痛みを生じる場合は、医師の診断を受けること。
- ・上記症状が出た場合、直ちに医師の診断を受けること。
- ・衣服等に付着した場合は、脱いで皮膚の付着した部分を十分に洗い流す。
- ・汚染した衣類を再使用する場合は洗濯してから使用すること。

目に入った場合

- ・清浄な水で最低15分間目を洗浄する。洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまで 水がよく行きわたるように洗浄する。
- ・コンタクトレンズを使用している場合は、固着していないかぎり、取り除いて洗浄を続ける。
- ・眼の刺激が続く場合は、医師の診断を受けること。
- ・激しい痛みがある場合は、直ちに医師の診断を受ける事。

飲み込んだ場合

- ・直ちに水で口の中を洗浄する。
- ・直ちに医師の診断を受けること。
- ・無理に吐かせないこと。
- ・子供などが飲み込んだ懸念がある場合、直ちに医師の診断を受けること。

最も重要な兆候及び症状

- ・特になし

応急措置をする者の保護

- ・特になし

医師に対する特別注意事項

- ・特になし

5.火災時の措置

消火剤

* 製品自体は不燃性

- ・炭酸ガス、泡、粉末、乾燥砂、水の散布、耐アルコール性泡消火剤

火災時の特有の危険有害性

- ・燃焼ガスには、一酸化炭素等の他、窒素酸化物系のガス等の有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙を吸入しないように注意する。

特有の消火方法

- ・消火作業は、可能な限り風上から行なう。
- ・関係者以外は安全な場所に退去させる。
- ・周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。
- ・火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。
- ・周囲の設備などの輻射熱による温度上昇を防止するため、水スプレーにより周辺を冷却する。
- ・消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行う。

消火を行う者の保護

- ・消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク)を着用する。
- ・消火活動は風上から行い、有毒なガスの吸入を避ける。状況に応じて呼吸保護具を着用する。

6.漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- ・屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。
- ・漏出時の処理を行う際には、必ずゴム手袋、保護眼鏡、保護衣等を着用すること。
- ・漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する
- ・作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵、ガスを吸入しないようにする。
- ・風上から作業し、風下の人を退避させる。
- ・着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。
- ・こぼれた場所はすべりやすいために注意する。

環境に対する注意事項

- ・流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。

回収、中和

- ・少量の場合は、吸着剤(おがくず・土・砂・ウエス等)で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取り、密閉できる空容器に回収する。
- ・大量の場合には、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。
- ・回収後の少量の残留分は土砂またはおがくず等に吸収させる。
- ・付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置する。

二次災害の防止法

- ・漏出時は事故の未然防止および拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。

7.取扱い上の注意

取扱い

技術的対策

- ・製品記載の使用上の注意を良く読み、用途以外に使用しないこと。

保管

適切な保管条件

- ・製品記載の保管条件を読み、適切に保管する事。

安全な容器包装材料

- ・特になし

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策

- ・蒸気または煙やミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。

記載の無いものは、知見なし、あるいはデータなし

成分名	管理濃度	許容濃度 (日本産業衛生学会)	許容濃度 (ACGIH)
界面活性剤	—	—	—
塩酸	—	5ppm 7.5mg/m ³	TLV-C2 ppm
酸性フッ化アンモニウム	—	—	STEL C 2ppm(asF)
有機酸類	—	—	—
イオン交換水	—	—	—

保護具

呼吸器の保護具

- ・保護マスクを着用する。必要に応じて防塵マスク、防毒マスク、有機溶剤用の防毒マスク等を着用する。

手の保護具

- ・保護手袋、必要に応じて耐溶剤性手袋、ビニール手袋等を着用すること。
- ・必要に応じて保護衣、保護前掛け等を着用する。

目の保護具

- ・保護眼鏡(普通眼鏡型)、必要に応じて、ゴーグル型、保護面等を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

外観	: 青色粘性液体
臭い	: 刺激臭
pH	: 1
融点/凝固点	: データなし
沸点、初留点と沸騰範囲	: 64.7-100°C
引火点	: データなし
自然発火温度(発火点)	: データなし
燃焼性	: データなし
燃焼又は爆発範囲下限、上限	: データなし
蒸気圧	: データなし
蒸気密度	: データなし
蒸発速度	: データなし
密度	: 1.05 g/cm ³
溶解性	: 水溶解
オクタノール/水分配係数	: データなし
分解温度	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性

化学的安定性

- ・通常の取扱いにおいては安定である。

危険有害反応性の可能性

- ・特になし

避けるべき条件

- ・特になし

混触危険性物質

- ・アルカリ剤と中和反応により接触すると激しく反応する。

危険有害な分解生成物

- ・特になし

その他

- ・特になし

11.有害性情報

成分名 化学名	急性毒性 (経口)	急性毒性 (経皮)	急性毒性 (吸入:ガス)	急性毒性 (吸入:蒸気)	急性毒性(吸入 :粉塵、ミスト)	皮膚腐食性/ 刺激性	眼に対する重篤な 損傷性/眼刺激性
界面活性剤	区分に該当しない	区分に該当しない	区分に該当しない	区分に該当しない	分類できない	区分に該当しない	区分に該当しない
塩酸	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	区分5	区分に該当しない	区分2A
酸性フッ化アンモニウム	区分4	区分に該当しない	分類できない	区分に該当しない	分類できない	区分に該当しない	区分に該当しない
有機酸類	区分に該当しない	区分に該当しない	区分に該当しない	区分に該当しない	区分4	区分1B	区分1
イオン交換水	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない

成分名 化学名	呼吸器感受性又は 皮膚感受性	生殖細胞変異原性	発がん性	生殖毒性	標的臓器/全身毒 性(単回暴露)	標的臓器/全身毒 性(反復暴露)	誤えん有害性
界面活性剤	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
塩酸	区分1	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
酸性フッ化アンモニウム	分類できない	区分に該当しない	区分に該当しない	区分に該当しない	区分3	区分2	分類できない
有機酸類	区分に該当しない	区分に該当しない	区分に該当しない	区分に該当しない	区分1	区分2	区分に該当しない
イオン交換水	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない

12.環境影響情報

成分名 化学名	水生環境有害性 短期(急性)	水生環境有害性 長期(慢性)
界面活性剤	区分3	区分に該当しない
塩酸	区分3	区分に該当しない
酸性フッ化アンモニウム	区分3	区分3
有機酸類	区分に該当しない	区分に該当しない
イオン交換水	分類できない	分類できない

13.廃棄上の注意

- ・内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

14.輸送上の注意

国際規制

国連分類

該当 クラス8(腐食性物質)

国連番号

該当 1760(洗剤/腐食性物質)

国内規制

容器イエローラベル

該当 154

輸送の特定の安全対策及び条件

- ・容器の破損、漏れがないことをたしかめる。
- ・荷くずれ防止を確実に行う。
- ・該当法令に従い、包装、表示、輸送を行う。
- ・直射日光を避ける。
- ・水漏れ厳禁。
- ・横積み厳禁。
- ・夏場の輸送時においては、熱い鉄板、地面等の上に直接置かないこと。
- ・輸送容器は衝撃を与えないように、ていねいに取扱う。転倒したり、激突させたりしない。

15. 適用法令

火薬類取締法

対象外

高圧ガス保安法

対象外

消防法 ()内は、指定数量

非該当

内容量(-)

毒物及び劇物取締法(毒劇物取締法)

詳細は 3. 組成、成分情報参照

非該当 * 基準値以下

労働安全衛生法

表示・表示対象物質を含有(詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

労働安全衛生法(有機溶剤中毒予防規則)

非該当 該当成分を含有しない。(詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の促進の改善の促進に関する法 (PRTR法)

PRTRIに該当 (詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

16. その他の情報

参考文献

安全データシート(SDS) JIS Z7253:2019

GHS分類結果データベース (独立行政法人製品評価技術基盤機構ホームページ)

中央労働災害防止協会安全衛生情報センターホームページ

13901の化学薬品 (化学工業日報社)

産業中毒便覧 (医歯薬出版株式会社)

危険物船舶運送及び貯蔵規則 (海文堂)
